

“あしもとから” 福岡の海を守り伝えていく、ふくおかFUNの取り組み



こんにちは！コレクティブふくおか+事務局です。コレクティブふくおか+の「持続可能な環境づくり」チームが、社会課題の解決に向けて取り組んでいる一般社団法人ふくおかFUNの現場へ伺い、インタビューした内容を記事にまとめてくれました。ぜひ、ご一読ください。

”自然伝承”という活動理念のもと、ダイバーだからこそ出来る活動を通じて、真の「豊かな海」を目指し、社会課題に取り組む企業があります。

今回私たちがインタビューしたのは、福岡市にある一般社団法人ふくおかFUNさん。

[ふくおかFUN](#)

私たちの身近に存在している海ですが、太陽系の惑星の中で海が存在しているのはこの地球だけ。私たちの先祖、そして生命のもとはこの海から誕生しました。そして、私たちは今でもなお海に大きな恩恵を受けて暮らしています。

そんな海が今、様々な問題によって危機的な状態に陥っています。このように、環境問題に対してはどうしてもネガティブな気持ちになってしまいます。その私たちのネガティブな気持ちを完全に吹き飛ばすかのように、とても明るく、そして海に対して熱い思いを持って活動に取り組まれているふくおかFUN代表の大神弘太郎さん。

そこで、今回私たちは一緒に参加させていただいた海岸清掃やインタビューを通じて、一般社団法人ふくおかFUNの大神弘太郎代表理事のこれまでのキャリアや、事業内容、海に対する思いについて、迫っていきたいと思います！！

10万円握りしめて沖縄へ!大神さんがダイバーとして海の保全活動に足を踏み入れたわけは!?

真の「豊かな海」を目指して、環境問題に取り組まれているふくおかFUNの大神さん。これまでどのようなキャリアを歩まれてきたのでしょうか？

「福岡の高校から、岡山の大学に進学しました。そこでサッカーのサークルを作り、2年間で120人の部員を集めました。そのことがきっかけで、その当時は「俺なら何でもできる！」と思い、10万円を握りしめて行ったことのない所へ行こうと決めました。それが沖縄でした。そこでダイビングに出会い、ショップの手伝いをする代わりに無料で海に潜ることが出来たため、そこでダイバーになりました。最初は「モテたい!!」という気持ちがダイバーになるきっかけだったんです(笑)」

沖縄の海に魅せられ、最初は「モテたい！」という思いでダイビングを始められた大神さん。ダイビングを通じて、海の楽しさだけでなく、保全活動や魅力を発信するきっかけは何だったのでしょうか？

大神さん「21歳の時に西表島を初めて訪れ、島民の方が自分たちの島の自然を本気で守ろうとしていたことに感銘を受けました。当時、西表島では公共放送の1チャンネルのみしか放送されていませんでした。対して、岡山や福岡ではたくさんのチャンネルがあり、エコやリサイクル関連の環境啓発のCMが多く流れているにもかかわらず、街にはタバコの吸い殻やガムが多く落ちていました。一方で、西表島ではそのような環境啓発のCMなどが放送されていないにも関わらず、自然を本気で守ろうとしている島民の方の姿がありました。

このことを通じて、「自然を残したいと思う場面に出会うことが出来るかが重要であり、それを伝える仕事しよう」と思ったことが一番大きなきっかけですね」

西表島で、ネイチャーガイドやダイビングインストラクターを通じて海の魅力を多くの人に伝えていた大神さん。その後、バックパッカーとして世界中を回り、トンガ共和国を旅している道中、東日本大震災が発生します。

「自分の生まれ育った国が大変な状況にある中で、ここで自分が動けなかったら後悔すると思いました」と話す大神さん。

そんな思いから、福岡では被災地から持ち帰った写真洗浄や物資支援を行い、被災地ではダイバーとしてがれき撤去や水中模索活動を行ったそうです。

西表島の方々の自然への接し方に感銘し、また東日本大震災でのボランティアなど様々な経験をする中で、「ダイバーだからこそ取り組める社会課題を解決したい」という想いで、現在のふくおかFUNを設立しました。

海の魅力を伝えるために「自然伝承」伝える大神さんの想い

“ふくおかFUNさんは、子どもから大人まで、たくさんの人たちに海の不思議や素晴らしさ、豊かさを伝えたいという想いで、シュノーケル体験をはじめ、授業や講演会、海岸清掃などの啓発イベントなどを行っています。また、潜水調査や水中撮影を通じて、多くの人に海の魅力を伝え続けていま

す。「人が変わる瞬間に立ち会えることがすごく嬉しい。何が正しいとかではなくて、自由に選択肢がある中で、何かをしたくなるような誘導を心がけたい」と話す大神さん。



私たちが実際に大神さんの活動する様子や、取材をさせていただく中で、「アクションを起こしたい！！」と思うようになった仲間の一員です。

私たちはインタビューの前日にふくおかFUNさんが海の中道海浜公園で開催された海岸清掃に参加させていただきました。

開始前、私たちはとても緊張していました。まず大神さんに初めてお会いするということ。そして、参加者の方はほとんどの人が初対面ということもあり、緊張感が漂っていました。

しかし、大神さんが登場して場の雰囲気は一変しました。とにかく明るい！！そして私たちは大神さんに「参加者同士たくさん交流をするように！」とお願いいただき、清掃を始めました。

結果として、大神さんから最初にアドバイスをいただいたおかげで、たくさんの人と交流をすることが出来ました。中には沖縄から参加しているダイバーさんもいて、福岡と沖縄の海の違いについて話したり、環境に配慮した製品を作られている企業の方とお話したり、自分がこれまで知らなかったことをたくさん知ることができました。

一見、きつくて暗いイメージの清掃活動。実際はそんなことは全然なく、むしろ超楽しかった！！「楽しむ」ことは、持続的に活動するうえで非常に大切だということを大神さんから学びました。



ここが、福岡市だとは思えない大量のゴミ。初めて見るその光景に私たちは唖然としました。短時間でこれだけのゴミを拾うことが出来ました。(翌日は筋肉痛が襲いました。)

そして、清掃活動が終了した翌日。私たちはふくおかFUNさんの事務所を訪問し、インタビューさせていただきました。



「これ何だと思う？」

と、大神さんから出されたのはガラス瓶に入った小さな緑のプラスチック破片。博多湾にはこの緑の小さな破片がたくさん海岸に落ちているそうです。

私たちにはこの緑のプラスチック破片が何なのか分かりませんでした。

大神さん「正解は人工芝です。この人工芝は誰かがわざと川や海に流しているのではないと思います。皆さんが学校に通っている頃、雨が降って水に濡れたり、泥が付いてしまったとき、下駄箱にある人工芝マットで靴を拭きますよね。人工芝で靴の裏の泥や水を落とすとき、人工芝は削れ、側溝に流れ、川に行き、最終的に海へ流れ出ます。ポイ捨てやめようとか、自分はゴミを捨ててないよとは思うけど、無意識のうちに出しているごみがあるということに気づくことが大事です」

この言葉に私たちははっとさせられました。私たちが今まで考えてきたゴミ問題は、想像以上に複雑な問題でした。

ゴミ問題の解決策として、私たちが真っ先に思い浮かぶものは「ポイ捨て」を減らそうと、皆に訴えることではないでしょうか。

しかしながら、大神さんの話を聞いて、自分の意思でポイ捨てはしていないけれど無意識にゴミを捨ててしまっている。2050年には魚の数よりゴミの数が多くなるといわれている中で、この問題は人が無意識的な行動の中で流出させてしまっていることに改めて気づかされるものだと感じました。

このように、大神さんの話を聞いて、私たちには今まで考えたことのなかったことや、アクションを起こしたい！！という気持ちが生まれました。

このように、自身が持っている経験を伝えることで、「アクションを起こしたい！！」と思ってもらうことが、ふくおかFUNの活動理念である「自然伝承」につながっていると大神さんは話します。

「私が旗振り役としてスポットライトを浴びるだけでは、自分の自己満足で終わってしまう。私の経験や活動を伝えて、皆がどうなっているかを大事にしたい。今日のインタビューも「自然伝承」になっていると私は感じています」

大神さんは、授業や講演会、メディア出演などが年間100本以上もあるお忙しい方ですが、相手が求めていることや目指しているのがそれぞれ異なるという考えから、同じスライドを使用せず、毎回工夫して資料を作成されています。「伝える」ことに関して、熱心に、そして、「地球」のために本気で活動されていると改めて実感しました。

「地域から地球へ」大神さんのこれからの展望

最後に、大神さんにこれからの展望についてお話をしてもらいました。

大神さん「今までは”あしもとから”の活動を大事に、地域を重要視し、福岡を中心に活動してきました。私の目標は「地球をまもる」ことです。そのために、フィリピンなどの他地域でも調査を行いたい。」

これまで福岡で活動された中で積み上げてきた経験やデータを活用してフィリピンを比較することで、地球をまもることもつながり、またその活動で得た知見を福岡にも役立てることが出来ます。

これからも地球のために活動されるふくおかFUNさんに注目ですね！！海岸清掃をはじめ取材にも本気に対応していただき、ありがとうございました！！

大神さんの話を聞いて

ビーチクリーンや取材の際、明るい笑顔で私たちに接して下さった大神さん。

今回、海のゴミや海の生き物だけでなく、SDGsや合意形成などといった多岐にわたる大神さんのお話を聞いて、改めて大神さんの知見に驚かされるとともに、大神さんが本気で「地球をまもる」ために、活動していることが伝わってきました。

特に、大神さんとの会話の中で「無意識に流出したゴミ」の話では、自分たちもこの海ごみ問題に関わっている当事者の1人だと改めて気づかされました。

誰か個人の問題ではなく、社会全体の問題であることは、海ごみ問題のみならず、全ての社会課題に共通することだと思います。

そのことをまずは私たちがしっかりと自覚するとともに、活動を通じてより多くの人に伝えていきたいと思っています。

【持続可能な環境づくり班】

ニックネーム(所属) ayane(大学生)、リンゴ(大学生)、たーとる(大学生)、ちーぱる(大学生)、こうけいまる(大学生)

(取材日:2021年12月16日)